



行政サービスの拠点として 横田庁舎の更なる活用を

藤原和範 議員

町長 分庁舎方式により今後も引き続き活用していく



問 高齢化社会に向けて一定の日常生活圏エリアの拠点施設、行政サービスはそこに住む住民にとって、とても大切なことである。奥出雲町のこれからの町づくりにおいて、仁多、横田両地区の均衡ある発展、整備が重要と考える。

答 今後の両庁舎周辺整備や市街地活性化について問う。

新仁多庁舎は三成市街地の再開発再整備の絶好の機会と考えるが。

答 街づくり委員会により、中心市街地の街づくり構想がまとめられた。今後、その整備案に基づき仁多庁舎前県道の歩車共存道路の整備、町道護岸道路など計画的に進めるよう努める。市街地に

おいては、三成小学校の改築、老人保健施設の改築にあわせ活性化の方策も検討する。

問 横田庁舎を地域の行政サービスの拠点として、更なる活用と共に庁舎周辺の再整備を視野に入れた活性化策の検討を。

答 横田庁舎は合併以来、分庁舎方式により町の行政サービスの拠点として、その役割を果たしている。今後も引き続き活用していく。

中心市街地においては、横田市街地街路灯のLED化等の整備、横田小学校プールの移転改築を予定。また、横田コミュニティセンターの改築、改修を行う際には、新たな機能の付加なども検討したい。

問 総合戦略に位置付けられている、「まち・ひと・しごとセンター」の具体的な役割や機能は。

答 移住後の支援体制の充実を目的に、「住まいサポート」として空き家バンク事業、「しごとサポート」として無料職業紹介

所の運営等を想定。更に若者未来会議などの人材育成事業も検討している。

移住、定住希望者に対してワンストップで対応する支援体制を整備する。またセンターを役場外に設置し、来訪しやすく気軽に相談できる環境整備を行っていききたい。

問 組織・運営体制は。

答 当初は、町の一部門として立ち上げ、NPO、民間団体等の協力を得て運営をしていく。将来的には法人格も検討する。

問 設置する時期場所は。

答 来年度の早い時期に、三成地内を検討している。

問 学校再編の具体的な進め方について今後、複式学級も増えることが予測される状況下において、校舎の耐震化にあわせて、早い段階で学校再編の具体的な進め方を示すべきではないか。

答 安部教育長

再編する学校や年度を示すことも考えられるが、再編の成果を考えた場合、学校、保護者地域、行政が一体となることが大切



県代表に選ばれた第5区（繁殖雌牛群）

であり、そのようにする考えはない。

問 総合教育会議等において、統廃合のみならず小中一貫教育も視野に入れた学校のあり方について、改めて検討すること提案しておく。

全国和牛能力共進会の今後の取り組みは。

答 前哨戦となる第5区繁殖雌牛群において、県代表地区として2大会、ふりに出場権を獲得。今後、単品区の若雌の部を含む各出品区において町の代表牛を決定し、6月の県最終選抜会で出場枠の獲得を目指す。飼育農家はもとより関係機関と一体となり、全力で取り組んでいく。